

JCIに入会して、今思うこと

賀川法律事務所 弁護士 加藤 高明



ほっと一息ついてます。半年という短いようで長い、研修期間を終えた率直な感想です。同時に、先に待っているJC活動への期待で満ち溢れています。私は県外出身かつ土業という、岡山青年会議所においても少ない属性の人間です。さらに、弁護士という職業故、企業の役員の皆様とは考え方が根本的に異なります。異業種の考え方や発想を柔軟に受け入れ、仕事にも生かせるよう日々自己研鑽しています。JCと聞くと、お酒を飲んでいる団体だ、という回答が多い現状ですが、そのように回答する方は必ずと言っていいほどJCに属したことがない人です。半年の研修期間、お酒を一滴も飲まずに過ごした人間がここにいる、という事実を皆様にも知っていただきたい。そして、そのような人間でも受け入れてくれる素晴らしい特別会員及び現役会員の皆様がいまいます。これがJCという組織です。真っ白な状態で、岡山青年会議所に入会させていただき、半年間、精一杯楽しんだ人間として、多くの方々にこの思いを共感していただきたいと思います。

株式会社 アーキスコープ 瓶井 潔英



私は、2015年度前期に入会いたしました。入会当初は、仕事との時間調整に苦勞し、只々参加するだけでした。しかし、最高の同期やスタッフと出会い活動を共にしていくうちに数多くの刺激を受け、自分自身の取り組む姿勢に変化を感じています。活動内容の中に自己意識の改革に繋がるツールが多く、自己研鑽に励むことこそが能力開発の原点だと改めて気づかされました。また、多くの経営者から、サラリーマンならではの視点で感じ取れる学びも、魅力の一つだと感じています。様々な職種や立場の異なる同世代の仲間が一同に集まる場、その仲間と想いを共有し一つの事へ本気で取り組む場。何より岡山を愛し、熱い言葉を飾らず語り、素直に行動に移せるのは岡山青年会議所ならではの良さだと思います。残された時間を大切に、岡山のために、自分自身のために、これからも青年会議所活動を最後までenjoyしたいと思っております。

Junior Chamber International Okayama 公益社団法人岡山青年会議所 入会のご案内



私たち公益社団法人岡山青年会議所は、20歳から40歳までの次世代を担う若きリーダーが集う組織です。地域社会の発展のため、次世代のまちづくりのために青年会議所の活動を通じ、幅広い交流範囲の様々な人との「出会い」や「学び」、「成長」を繰り返します。地域社会や組織において、より優れたリーダーとなるための切磋琢磨を重ね、より豊かなまちづくりと人づくりを目指します。皆様もぜひ私たちと一緒に岡山青年会議所で、新たな可能性にチャレンジしましょう。

年齢・資格

満20歳以上39歳以下
(H6.1.1生～S50.1.1生)の
品格のある男女

募集期間

随時募集しております。詳しくは、
下記事務局までお電話にてご連絡
ください。

入会に際して必要なものです

- 入会申込書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 履歴書
- 入会誓約書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 入会承諾書
- 作文 題目「岡山JCI入会にあたって」※万年筆またはボールペンで、楷書で記入のこと ※700字以上
- 会社謄本 ※資格のみで正業に従事する場合は、資格者証の写し
- 本人の住民票
- 写真 ※縦4cm横3cm 4枚(うち一枚は履歴書に貼付) ※白黒写真ネクタイ着用・スピード写真不可

〈事務局〉

TEL:086-223-0938 FAX:086-225-0500 E-mail:info@jci-okayama.com
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

2015年度 岡山JCホームページ・facebook

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業紹介や会員拡大情報など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.okjc.org/>



facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>



2015年度 広報誌「暖流」 Vol.3

■発行日/平成27年8月19日

■発行/公益社団法人岡山青年会議所

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

TEL:086-223-0938 FAX:086-225-0500

URL <http://www.okjc.org/2015/>

E-mail info@jci-okayama.com

■発行責任者/公益社団法人岡山青年会議所

拡大・広報委員会 委員長 野上 昌範

岸本 恭秀 笹山 勇二 本多 信晴 藤井 大温

井戸 啓太 勝谷 満 河野 初仁 末長 一範

三宅 寛 柚木 久生 吉村 忠道

■印刷/株式会社岡文館印刷所



環境に配慮し、古紙/リサイクル配合紙100%の再生紙と植物性大豆インキを使用しています。

★次号は9月発行予定です。

暖流

JCI Junior Chamber International Japan
公益社団法人 岡山青年会議所

vol.03

OKAYAMA
JC REPORT
2015.AUG



【市長対談】
岡山市長
大森雅夫

【Pickup!】

○キッズビジネスパーク





岡山市長対談

岡山市長 大森 雅夫 × 第65代理事長 久松 朋史

理事長:岡山市長になられて1年半弱が経過されましたが、市長になる前と実際になった後の岡山についてどのように感じているか教えていただきたいです。

大森市長:東京にいる時はそれほど岡山の名前は聞こえてきませんでした。しかし、故郷に帰ってきてみると、岡山青年会議所が立ち上げた「うらじゃ」など参加型の明るなお祭りがあり、素晴らしい試みをされていて、色々変わっていると感じました。岡山市としては、昨年のESDに関する世界ユネスコの会議がおこなわれるなど、賑わいは増えてきたのではないかと思います。この流れを活かし、もっと岡山が良くなればと思います。

理事長:私も岡山で生まれ育ち、岡山のことを外から見る機会が少なかったのですが、県外の方からは「岡山は地理的にも交通の便が良く、気候も温暖で災害が少ない良い街ですね」とよく言われます。しかし、それらの良い部分を活かすため、今後の発展性はどうかと感じています。何が原因なのか考えることがあり、岡山は災害が少ないから切迫感が足りない県民性なのかと思ったりします。

大森市長:災害が少ないから助け合いの精神が足りないという方が多いですね。確かに食欲感が足りないと思います。個人個人の商売は別にして、コミュニティとして何か一緒にやっていく気質が欠けているという指摘はありますね。

理事長:そういった食欲感が足りない岡山を何か変えていかないと、これから生まれ育つ子供たちも、同じ様になってしまうと思います。

大森市長:2013年度のデータですが、岡山県民の愛着度は全国で40位、自慢度は43位、情報発信の度合いを示す情報の接触度は46位です。残念な数字ですが、別の数字を見ると人口が4年連続1000人単位で増えています。災害が少ないのはプラスになっています。東北から避難してきた人が、中四国地域では岡山に移住する人が圧倒的に多いです。もっとそこで県民性を示していくべきだと思います。団結して「やるぞ」という感じにはなっていませんね。

理事長:これまで大きな災害が少なく、助け合わないとどうにもならないという経験がありません。個人で対処できるという風潮があるように思います。

大森市長:私は全国で色々な人と付き合ってきました。東北の人は寡黙だけど、まとまりがあります。沖縄も独特な風土があります。私は鹿児島県庁にいましたが、薩摩の人は芋づる式と言われるように連携があります。ただ、「うらじゃ」もそうですが、最近ファジアーノ岡山やシーガルズの試合に行ってみると、少し違う新しい要素が出てきているのを感じます。

理事長:岡山市は緩やかながら人口が増加しているのは素晴らしいことです。岡山に暮らしたいというような枠組みを行政がつくるのは勿論のこと、

我々のような団体が地域に根差した活動をする中で心の面で豊かにしていくことは大事です。大森市長は、これから行政側で何かやっていこうという物事はありますか。

大森市長:行政は一言でいうと、「住みやすい町」「活力のある町」をつくることを考えています。これしか無いというものではありません。先日、現代アートの「イマジニアリング」をやっていました。あのイベントはクロスカンパニーの石川氏がやろうと言っているから出来た事です。行政はサポートをしないとダメだと思いますが、特別な動きというのは民意によるところが大きい。青年会議所はこれから担う団体なので、前を向いて元気を出して、市民の方を驚かせていくことが重要です。

理事長:行政の方と普段お話をする機会がありますが、すごく考えられていると感じます。ただ、民間やNPOやNGOにしか出来ないことが沢山あります。そういった意味では行政側が何かきっかけをつくって、民間と一緒にやっていくようなことが出来ればいいですね。

大森市長:西川で「満月パー」をやっているタブララサという団体がありますよね。あのイベントはタブララサが中心になって実施しているように見えますが、公園の使用許可は一回、一回、岡山市の都市整備局という局がおこなっています。一緒になってやっていて、あそこまで大きくなっているのは素晴らしい。

理事長:今年は岡山青年会議所が65周年という節目の年を迎えます。記念事業として7月に岡山市民会館で、宇宙飛行士の毛利衛氏の講演会を行います。内容は夢を持つことの大切さや、岡山から世界で活躍してほしいと子どもたちに伝えてもらうことです。そういった世界で活躍をするという意味では、グローバル化がどんどん進んでいっています。それに対して岡山市が今、何をしていくべきか市長はどのようにお考えですか。

大森市長:グローバル化は様々な意味があります。経済のボーダレス化はますます進んでいきます。企業が海外進出する時に、出やすい環境づくりを手伝う必要があります。また、訪日外国人数が1300万人を超え、2000万人を目指そうとしています。グローバルな人の交流は進んでいますが、日本に来て東京・京都で止まってしまうケースが多いです。岡山も増えてはいますが、外国人観光客をいかに取り込んで経済効果を上げていくのが重要なことです。

理事長:我々も地元で商売をしていますので、経済の活性化というのは、とても重要だと思います。東北地方から、岡山に移り住みたいという希望者も全国で3位ぐらいと聞いています。そういった魅力をもっと発信できる手段が必要だと思います。

大森市長:東京に長いこと住んでいて、「岡山」という単語をあまり聞きません。もっと、目立って一人一人が情報を発信しようというのが大事です。

例えば、日本青年会議所の会頭になるというのもそうした手段の一つだと思います。岡山を舞台にした映画「でーれーガールズ」をもっとヒットさせるということもいいのかもしれません。例えばああいう映画にみんなで行こうという感じはないですね。それはすぐには出来ないかもしれませんが、ファジアーノ岡山の木村氏は凄いですよ。10年近く活動を続けて、一つ一つ段階を上げていっています。一朝一夕には物事は変わりませんが、活動をずっとやり続けることが重要なことなのです。

理事長:話は少し変わりますが、人口に対する病院数の割合は、岡山は高い方だと思います。医療の面での優位性を、外部に発信していくのも一つのツールだと思います。

大森市長:病院は政令市の中で、医師数は3位。一般病院数4位。一般病床数4位です。それは生活環境が良いということだと思います。そこは岡山大学医学部の力が大きいですね。臨床系では本当にトップクラスの実力を持っているので、大切にしないとダメですね。

理事長:先ほど言われた少子高齢化や病院の問題など、上手く出来ている事もあり、出来ない事もあると思いますが、市長から見ると、我々の様な団体や市民の方に、もっとこういった事を頑張ってもらいたいというアドバイスはありますか。

大森市長:全国的に岡山を見た時、もっと経済的に大きくなった方がいいと思います。今なぜ地方創生の議論が出ているかというと、東京で出生率が低くなり、人口がどんどん減っていくという現実があります。それを食い止める為に議論をしています。経済というのは、様々な生活意欲や社会意欲が整っていないと、成り立ちません。岡山・倉敷・福山・広島などのある程度大きな都市でないと、企業発展、経済発展は難しいと考えます。岡山の企業が大きくなったり、東京から企業を誘致したりして、岡山の経済が発展することが重要です。少し話が違いますが、女性の社会進出に対する意識の向上も必要です。岡山では女性の社会進出が本当に遅れています。例えば、企業の管理職全体の女性の割合が13.4%に対して、岡山は9.9%です。岡山市役所に至っては、わずか6.5%です。確かさいたま市は17.6%。管理職になりたいと思う女性自体が100人のうち28人しかいません。だから、岡山のそういう空気を変えていく必要があります。M字カーブって知っていますか。30代・40代になると女性が家庭に入って仕事から離れていってしまいます。そのM字カーブが無くなると、7兆円程度の経済効果が期待できます。青年会議所も女性会員の数は少ないですよ。



理事長:我々も女性メンバーを増やしたいなと思っていますが(笑)。

大森市長:増やしたいという表面的なものだと難しいですよ。もっと意識自体を変えるにはどうすればいいか、考える必要があります。

理事長:我々男性からしても差別する気持ちはありません。ただ、中小企業では女性が結婚して産休や育休に入ると、戦力的に抜けたら痛いと考えていると思います。

大森市長:産休や育休は仕方ありませんよね。しかし、仕事に復帰したら、昇進させてあげたらいいですね。

理事長:そういうことですか。なるほど。

大森市長:岡山市はやっていません。だけど、産休・育休を取っても、それは岡山市で仕事をしていただくと同じように扱うということを今回やり始めました。男性が勤務年数5年だと平等に見えますが、女性その間に産休・育休を2回取ると、男性が5年、女性が1年になってしまいます。女性もやる気が無くなりますよね。男性だって自分たちの方が上だと思っています。それでは、そこで終わってしまいます。

理事長:そうですね。そうした課題はありますね。

大森市長:課題は具体的に動かないと解決しません。みんな意識はあると

思いますが、動かないと物事は変わりません。それで失敗しても、また変えていけばいいです。青年会議所でも動いてみてください。青年会議所は何歳までですか。

理事長:最終は40歳までです。女性メンバーは現在二人です。**大森市長:**女性メンバーが一人や二人だと女性も嫌がります。ある程度の人数を増やす試みが必要です。そうしないと社会的な損失になります。

理事長:そうですね。女性の方でも活動に興味を持っていただけるように考えていきます。

大森市長:今度、政令指定都市の市長会でワークライフバランスのプロジェクトチームのリーダーをやります。女性の活躍みたいな内容です。いくつか案を出しましたが、男性の育児休暇取得を100%にしようとしています。その通りにならなくても、打ち出せば物事は変わるんじゃないかなと思います。

理事長:北欧のノルウェーでは、上場会社の女性役員を40パーセント以上雇用しないとダメと法律で決まっています。そうしないと、会社を解散しないとダメなルールがあるそうです。

大森市長:ジェンダーギャップシステムというものがあって、1になると男女が完全平等です。日本は、0.6ぐらいで低いですね。ノルウェーは0.8以上あります。青年会議所も変化を起こすために、様々なことに挑戦してみてください。

理事長:分かりました。ありがとうございます。話は変わりますが、イオンモール岡山ができて、今後どういう影響を及ぼしていくと思いますか。

大森市長:それはプラスとマイナスの面があると思いますが、全体としては人が来るのでプラスだと思います。

理事長:そうですね。商店街は団結して、独自のサービスをしようとしているので、あれは一つの効果かなと思います。



大森市長:商店街はもちろん、他の百貨店やビルの商店も影響が出ていくことは間違いありません。だけど、大きくパイが増えないことには、変化は起きないので、パイを大きくしたことはプラスだと思います。これから、それをどう活かしていくのが重要です。イベントをしたり、公共交通手段を良くするというのももちろん、やはり民間の皆様の方で何をしていくのが問われると思います。民と官と一緒に、模索をする必要があります。

理事長:そうですね。県庁通りを一車線化みたいなことも非常にいいなと思います。そういうことが、色々な方面に繋がればよくなると思います。

大森市長:いいと思いますよ。西川だってもっと変えることができるだろうし、そういったことをどんどん発信してください。

理事長:分かりました。最後に岡山青年会議所の活動に対して、市長からアドバイスをお願いします。

大森市長:僕は故郷に戻ってきて、「うらじゃ」には驚きました。ああいう発想は若い力であり、官では出来ないことだったと思います。もし同じことを我々が発想しても、今のようにはなっていないだろうと考えます。「うらじゃ」は青年会議所が動かした中でも、本当にピカイチのものですね。だから、岡山にいてこれは楽しいなと思える仕掛けをしてもらいたいです。せっかく岡山で育って、皆さん経営をされているので、より楽しい町であれば言うことはありませんよね。頑張ってください。

理事長:分かりました。頑張ります。本日はありがとうございました。

事業告知

キッズビジネスパークIN岡山 ～わくわく未来の仕事探し～



8月29日(土)
岡山ふれあいセンター 10:00～16:30

小学校3年生～6年生の児童を対象として、2014年度に引き続き、2015年度版「キッズビジネスパークin岡山～わくわく未来の仕事探し～」(平たく言えば、岡山版キッズガザニア)を実施いたします。

本事業では、子供たちに学校や家庭では教わることのできない職業体験を通し、ともに協力して活動していくことで、社会は皆が共存することで成り立っていることを学んで頂きます。

また、さまざまな職業体験を通じて、将来なりたい職業が見つかったり、具体的に目標とする職業の体験をすることで、その目標に向かって今後何を学ぶべきか感じていただけます。

事業報告

第64回岡山ブロック会員懇親野球大会 5月24日 玉島の森公園

岡山県下の15青年会議所の野球部が集まり「岡山ブロック会員懇親野球大会」が、玉島青年会議所主管により開催されました。

昨年は2回戦敗退と悔しい思いをしましたが、今年こそは地区大会へ進出すべく、2月から練習に励んでいました。

練習の成果もあり決勝まで進出することができましたが、本大会では惜しくも準優勝となりましたが8月23日に福山にておこなわれる地区大会への進出を果たすことができました。

メンバー丸となり引き続き練習に励み、地区大会では優勝を目指します。

日差しの強い中、応援に来ていただいた特別会員の皆様、関係者の皆様、皆様がたの応援、本当にありがとうございました。

野球部 幹事長 木村 治貴



5月ビジネスフレンドセミナー 5月27日 サムライスクエア

岡山市近郊の20代～30代の企業経営者や後継者の方を対象に、経営に役立つ内容である決算書に関するセミナーを光元俊貴税理士事務所所長をお招きして開催いたしました。

ご参加いただいた多くの方の知識向上に繋げることができると同時に、現役会員にとっても決算書の大切さや活かし方など、多くの学びや気づきを得ることができました。

また、その後の交流会においては、ご参加いただいた方に岡山青年会議所の魅力を伝えることや親睦を深めることができ、大変有意義な時間を過ごす事ができました。

会員拡大特別委員会 副委員長 石井 清聖



10月例会ビジネスセミナー

現在の若手経営者に求められる、営業力やマネジメントをテーマに、元リッツ・カールトン日本支社 支社長でもあり、人とホスピタリティ研究所の代表でもあります「高野 登氏」のセミナーを開催いたします。

サービスよりも強力な営業力である「世界一のおもてなし」や卓越した企業を育てたマネジメントを直接学べるまたとない機会です。多くの方のご参加をお待ちしております。

講演スタイル 輝く組織と感動を生む営業とは～ホスピタリティがもたらす変革～

講師 ホスピタリティ研究所 代表 高野 登

実施日時 2015年10月15日(木) 19:00～21:00 (受付 18:30～)

実施場所 ラヴィール岡山 3階

参加料 3,000円 ※応募者多数の場合は抽選
※登録につきましては岡山青年会議所ホームページよりお願いいたします

会員拡大特別委員会 副委員長 木村 治貴

事業報告

大阪青年会議所・岡山青年会議所交歓会 6月5日 新大阪ウェディングテラス

6月5日(金)に『第44回大阪岡山交歓会』が実施されました。本年度は大阪開催ということでいろいろな準備をしていただき大変盛り上がりしました。

新大阪ウェディングテラスでの交歓会では双方のLOMの事業への取り組みなどのプレゼンテーションを通して発表をおこない、共に歩んできた65年を振り返りながらお互いの取り組みから学びあう貴重な時間となりました。また交歓会全体を通じて細やかなおもてなしの仕掛けをいくつも体験するシーンがあり、会話を超えて親睦を深めることができました。この絆を末永く続けられるよう岡山JCも今以上に学び大きな存在に成長できればと思います。大阪JCの皆様、設営・本当にありがとうございました。

広報・渉外委員会 副委員長 岸本 恭秀



前期親睦事業 6月7日 レスパール藤ヶ鳴

6月7日(日)に親睦事業「わいわいパーク∞感謝と友情の輪」が開催されました。バーベキューやアトラクションを通じてご家族と一緒に楽しめるだけでなく、お互いの家族同士が交流することで普段は会話にでてくるだけのメンバーが実際に出会うことでより深くJC活動やご家族のことを知り合うきっかけになる場となりました。

きび団子を使ったクレープづくりや、ペットボトルをリサイクルして作った空気砲でゲームをしたりと、見て、触れて、体を動かし、手を動かし、家族や友だちと一緒に遊べる楽しい会となり大盛況となりました。事業に参加・ご協力いただき誠にありがとうございました。

前期親睦事業実行委員会 一同



JCI ASPAC(世界青年会議所アジア太平洋)コタキナバル大会 6月11日～15日 マレーシア(コアキナバル)

今年度、6月11日～15日の日程でJCI ASPAC 2015INコタキナバルに参加いたしました。飛行機で乗り継ぎもある遠方にも関わらず、岡山JCからは20名ものメンバーが参加して、あっという間の充実した5日間は貴重な経験となりました。コタキナバルは海も山も楽しめるリゾート地でもあり、自然を満喫し様々な人々と触れあいました。大会本部はステラハーバーホテルをヘッドクォーターとして、異国の地で経済や社会、又、文化や風習も異なれど、国境を越えて同じ世代が同じ志を持って活動をしているという事に不思議な感覚を覚えました。参加した方、お見送りやお出迎えをはじめご協力いただいた全ての方々のおかげを持ちまして本事業を無事に終える事ができ誠に有難うございました。

広報・渉外委員会 副委員長 岸本 恭秀



事業報告

6月例会 6月18日 えきまえミヨシノ

6月例会が開催されました。今回は久松理事長の挨拶に始まり、委員会報告、慶弔報告が行われました。そして今回でえきまえミヨシノで最後の例会となり、えきまえミヨシノの代表取締役社長でもありJCの大先輩であられる若林昭吾先輩にご講演いただきました。設立時のお話、入会のきっかけ、岡山JCが発信し日本JCに影響を与えたことなど、52年にわたって岡山JCの会場として協力いただいた先輩ならではの話に今のメンバーも感慨深く拝聴させていただきました。長きにわたり使用をさせていただきまして、メンバー一同感謝しております。ありがとうございました。また、今回の例会は出席100%例会となりました!この節目をきっかけに改めてメンバーの心を1つにして歩み始められればと思います。出席して下さったメンバーの皆様ありがとうございました。

まちづくり委員会 一同



公益社団法人日本青年会議所中国地区 岡山ブロック協議会第51回岡山ブロック大会 6月28日 総社市総合文化センター

公益社団法人日本青年会議所中国地区岡山ブロック協議会第51回岡山ブロック大会が6月28日総社市総合文化センターにて開催されました。今年の主管は一般社団法人総社青年会議所ということで総社市総合文化センターでの開催となり、岡山県内の各LOMが一堂に会し式典では、次年度ブロック会長候補者、次回ブロック大会開催地が決定致しました。岡山青年会議所からは、若林先輩をはじめ歴代ブロック会長歴任の特別会員と岡山JCメンバーの多くの皆様にご参加いただきました。事業に参加していただいたメンバーの皆様、当日は最後までご参加いただきありがとうございました。

広報・渉外委員会 副委員長 岸本 恭秀



公益岡山青年会議所創立65周年記念事業 毛利衛講演会「夢をつかもう!~未来へ飛び立つために」 7月4日 岡山市民会館

7月4日、岡山市民会館で、岡山青年会議所創立65周年記念事業として、日本人初の宇宙飛行士として2度にわたりスペースシャトル・エンデバーに搭乗して宇宙飛行を行った、宇宙飛行士の毛利衛さんを講師に招き、「毛利衛講演会『夢をつかもう!~未来へ飛び立つために』」を開催いたしました。当日は、午後から小雨が降り始めて来場をあきらめる方が出ることが心配されましたが、実際には開場前から来場者が長い列を作り、約1200人の方にご参加を頂きました。講演会では、宇宙飛行士としてのご自身の経験をもとに、「夢」をテーマとしたお話しをいただき、毛利さんのお話が子どもたちを中心とした来場者の胸に深い印象を残した事業になったと思います。当日は事業にご参加、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

真にありたいまち・おかやま創生委員会 副委員長 難波 秀明

